

長崎派遣の報告



▲「平和の母子像」前にて

令和元年 12月 1日（日）に、けやきプラザふれあいホールにて「平和の集い～我孫子から平和を願う～」を開催しました。

派遣中学生たちは、長崎で学んだことや感じたことを、スライドを交えながら報告しました。

【報告概要】

- 派遣に向けて
- 第1日目
- 第2日目
- 第3日目
- 派遣後の活動
- 私たちの平和宣言



我孫子市では

2005年(平成17年)から
「我孫子市平和事業」として
中学校代表生徒が広島・長崎を訪問

2019年(令和元年) 8月8日～10日

『長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典』参列
『青少年ピースフォーラム』参加 他



白山中・市川みなみ さん

我孫子市では 2005 年から毎年、各中学校の代表が、市の派遣中学生として、広島や長崎の平和式典に参列しています。15 回目となる派遣に、私たち 12 人が参加しました。

私たちは 8 月に長崎を訪れ、74 年前に起きた様々なものを見、聞き、肌で感じとってきました。今日は、私たちが長崎で体験し感じたこと、考えたことをみなさんにお伝えします。

この発表を通して、皆さんやご家族の間、学校で、平和について考え、語り合う機会ができ、そのことが少しでも平和への道につながるものになれば嬉しいです。



湖北中・岡島舞衣香さん

日にち 7月25日(水) 14時～

場 所 教育委員会4階 大会議室

(1) 事前説明会

- 我孫子市平和事業推進市民会議 会長からの挨拶
- 派遣中学生、引率者の自己紹介
- 派遣行程の説明、注意事項
- 団長、副団長の決定

(2) 事前学習会

- 派遣中学生 OB・OG から、後輩の皆さんに伝えたいこと
早坂弘宇さん (H28 長崎派遣・高校2年生)
原 直樹さん (同上)
高須万悠香さん (H29 広島派遣・高校1年生)
柵木 愛さん (同上)
- 我孫子市原爆被爆者の会からのお話
副会長 的山ケイ子さん
- 意見交換

(3) 市長、教育長との懇談会

- 市長からの挨拶
- 教育長からの挨拶
- 派遣中学生自己紹介、抱負
- 懇談

■事前説明会、事前学習会



白山中・本田拓海さん

私たち派遣中学生は、7月25日、事前説明会と、市長・教育長との懇談会のために、教育委員会に集まりました。

まず、長崎派遣の目的と活動内容についての説明を受けました。

派遣OBの皆さんも参加してくださり、派遣中学生としての心がまえなどをお話していただきました。

皆さんそれぞれが感じたことや、今現在もリレー講座などで活躍していることも聞くことができました。



続いて、我孫子市原爆被爆者の会の方から、被爆体験の話を聴きました。

話をしてくださった的山さんは、今回、私たちと一緒に長崎を訪れました。

的山さんは、長崎出身で、お母さんのお腹の中で被爆しました。お母さんから聞いた、原爆が落とされた日のこと、自宅があった付近の様子や、その後の的山さんの幼少期の話も聞くことができました。



湖北台中・齋藤向太さん

■ 市長、教育長との懇談会





布佐中・鈴木友瀬さん

星野市長と倉部教育長との懇談では、派遣中学生としての抱負を一人ずつ述べました。私は、「3日間の長崎派遣で学んだこと、感じたことを、家族や学校の仲間など身近な人たちだけでなく、できるだけ多くの人たちに伝えたい。」と話しました。

星野市長からは、何を見てきてほしい、何を感じてほしいなどのお話ではなく、「皆さんが見て、聞いて、感じたことをもとに、しっかり自分の考えを持ってほしい。」というお言葉を頂きました。教育長からは、派遣に対する激励の言葉と私たちへの期待を込めた言葉をいただきました。

始めは緊張していましたが、市長、教育長と懇談する中で、次第にみんな気持ちがほぐれていきました。

「長崎は暑いですから、何かあったら遠慮なく言ってください」という、温かい言葉もいただき、3日間ご一緒して下さるといふことに、とても安心しました。

第1日目



我孫子中・岡智希さん

8月8日(木)朝7時にけやきプラザ前に集合し、出発の会を行いました。
見送りに来てくださった多くの方々に、派遣団としての決意を込めて挨拶をし、みんなで思いを一つにして長崎に出発しました。

我孫子市平和記念事業
長崎でのスケジュール

<8月8日(木) 第1日目>

- 1 「青少年ピースフォーラム」参加
 - ①被爆体験講話
 - ②平和学習(フィールドワーク)
- 2 稲佐山 山頂見学



湖北中・佐藤皓介さん



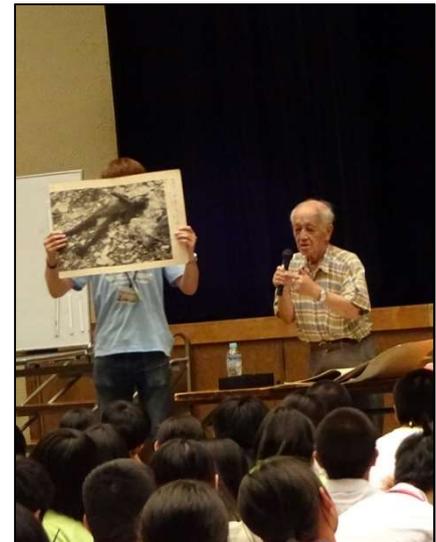
布佐中・五定舞桜さん

長崎に到着して、初めの活動は「青少年ピースフォーラム」でした。我孫子市以外にも、北は北海道、南は沖縄と、全国各地から平和について考え、学ぶために、約 500 人ものが生が集まりました。

「青少年ピースボランティア」と呼ばれる地元の高校生や大学生たちが、このフォーラムを作り上げています。司会や、フィールドワークの案内などを行い、私たちがのような小中学生や高校生の派遣団をリードし、平和に関する学習のサポートをしてくれました。

初めに、長崎市の田上市長から挨拶がありました。

■ 被爆体験講話



久寺家中・山田叶真さん

次に、18歳のときに被爆した、築城 昭平（ついき しょうへい）さんのお話を聞きました。

「戦争中は、運動はもちろんできず、勉強をしたくてもできなかった。」当時の日本全体の状況を細かく伝えてくださりました。

原爆が落とされる直前、真夏の暑い中でしたが、築城さんは布団を頭からかぶっていました。ガラスなどの破片から体を守るためにした、その行動1つが生死を分けたそうです。

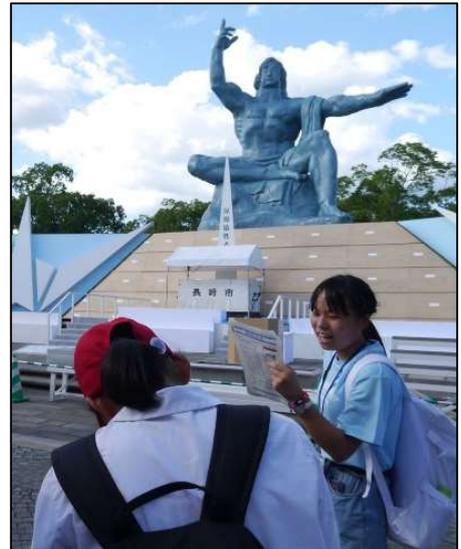
また原爆が投下された瞬間は、ガガガン、バーン！と、爆弾が家の真横に落ちたかと思うほどの衝撃だったそうです。

そしてこの一発により、神経がマヒしてしまう人、原爆症を発症し苦しむ人がいたそうです。

貴重な被爆者の方の話聞き、体験したからこそわかる苦しさを知ること、改めて戦争をなくし、新たな被爆者をつくらず、平和な社会になるように、そして誰かが苦しむことがないように、築城さんのような活動を続けていくことが、誰もが思う平和への近道ではないかと思いました。

■ 平和学習（フィールドワーク）

平和公園コース



湖北中・佐藤皓介さん

次に、グループに分かれてフィールドワークを行いました。

平和公園コースでは、平和祈念像を始めとする平和の象徴のモニュメントを見学したり、長崎刑務所浦上刑務支所跡を見学したりしました。

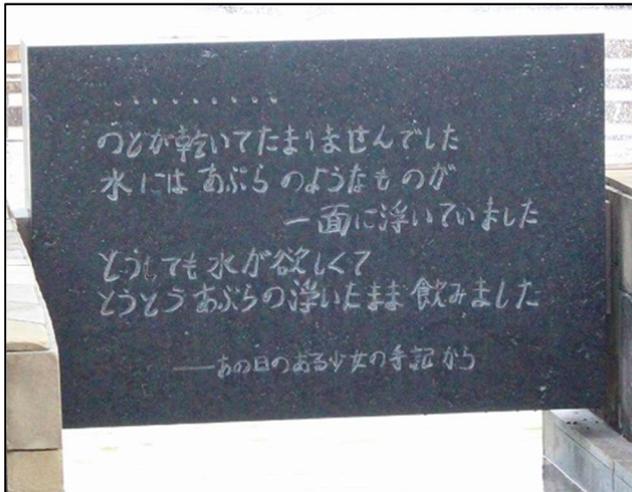
平和祈念像などのモニュメントは、世界中からの寄付金で造られたものです。このことを聞いて私は安心しました。なぜなら、私たちと同じように平和を願っている人がたくさんいることに気付いたからです。



久寺家中・工藤心陽さん

平和公園にある平和の泉には、黒い石碑があります。

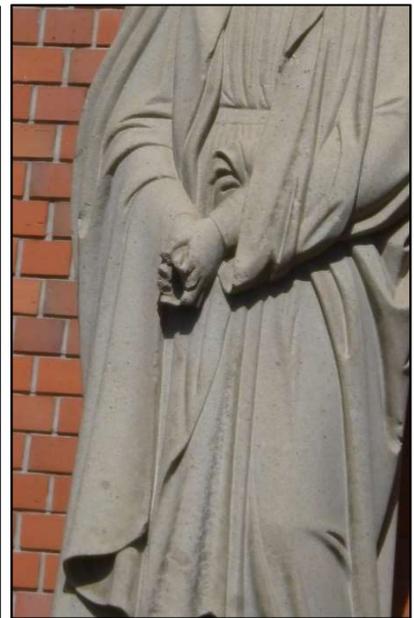
そこには、当時9歳の山口幸子さんが実際に書いた言葉が刻まれています。



「のどが乾いてたまりませんでした
水には、あぶらのようなものが
一面に浮いていました
どうしても水が欲しくて
とうとうあぶらの浮いたまま
飲みました」

このたった五行から、当時の情
景や被爆した人の苦しみを感じら
れ、とても胸が苦しくなりました。

浦上天主堂コース



湖北中・岡島舞衣香さん

浦上天主堂は、爆心地から約 500m離れた
場所にあります。この天主堂の、正面から見て左
側の鐘楼ドームが落下してしまいました。

また、キリスト教の信者にとって大切なマリア像
の指が欠けるほどの爆風が吹いたそうです。



湖北台中
齋藤向太さん

このコースでは、浦上天主堂の壁を見ることができました。

この壁は昔、浦上天主堂の一部でしたが、原爆によって柱のようになってしまいました。それはとても大きく立派なものでした。しかし、壁をよく見てみると、ずれていることがわかります。原爆の爆風によってずれたものだそうです。

原爆の恐ろしさを感じるとともに、爆風の影響でどのようなことが起こってしまうのか学ぶことができました。



山王神社コース



湖北台中・飯田愛菜さん

この鳥居は、原爆の凄まじい爆風によって笠石がねじ曲がり、爆心地側半分は吹き飛ばされてしまいました。実際に鳥居の半分があった場所に立ってみると、元の向きからずれていることがはっきりと分かり、爆風がどれほど強いものだったかを実感しました。



湖北台中・飯田愛菜さん

旧長崎医科歯科大学の正門柱は、爆風を受け7トンもある門柱が9センチメートルずれ、前のめりに傾いてしまっています。こんなに重い物が動いてしまうほどの原爆の威力の大きさに驚きました。

山王神社の大クスノキです。このクスノキは爆風の強烈な爆風により枝や葉が吹き飛ばされ木肌も焼かれ一時は枯死寸前と思われていました。それでも奇跡的に再び樹勢を盛り返し、被爆した方々に生きる勇気と希望を与えました。

平成24年度の派遣中学生が、我孫子市平和祈念式典の後、長崎市から頂いた貴重な被爆クスノキ二世の苗木を手賀沼公園に植樹しました。今も手賀沼公園で大切に育てられています。



■ 稲佐山山頂見学



我孫子中・稲見帆夏さん

派遣 1 日目、夕食のあと、新世界三大夜景にも選ばれている長崎の夜景を稲佐山から見ました。

街はとても美しく輝いていました。

夜景はとても印象的で、本当に 74 年前、この広くて美しい街に恐ろしい核兵器が落とされたのだろうか？と疑問に思ってしまうほどでした。また、夜景が美しい分悲しい気持ちにもなりました。

「稲佐山では原爆で亡くなった方がたくさん積み上げられ、焼かれていました。なので、すごく強い思いがあります。」

と、派遣後のリレー講座で被爆者の会の方が教えてくれました。

私たちがあの日歩いた道で、夜景を眺めていた場所で、沢山の人が山積みになれ焼かれていたなんて、知りもしませんでした。

現在の美しい姿と、過去の出来事から稲佐山は原爆の歴史を語り継ぐ場所であり、長崎の街の復興を象徴するものだと感じました。





白山中・市川みなみさん

1 日目の終わりには、団長・副団長を中心に団員全員で反省会を行いました。

この長崎派遣 1 日目で、私は原爆が落ちた時の熱線・爆風・放射線がいかに長崎の町や人々に影響を及ぼしたのか、現地に行って、実物を見たことで改めて学ぶことが出来ました。また、この反省会で全員の意見を聞いたことで、グループごとに学んだことやその人の感じ方、考え方を共有することが出来ました。

<8月9日(金) 第2日目>

- 3 長崎平和公園にて
 - ①千羽鶴の奉納
 - ②平和公園来場者へのインタビュー
 - ③長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典参列
- 4 青少年ピースフォーラム参加
- 5 長崎原爆資料館
国立長崎原爆死没者追悼祈念館 見学
- 6 グラバー園 見学



久寺家中・山田叶真さん



2日目はホテルから路面電車で移動し平和公園に向かいました。

すでに多くの人でしたが、さらにたくさんの方が来場していて、平和を願う人がこんなにも多くいるのだと知り、平和のための活動が世界で行われる大切さを感じました。

我孫子市民の皆さんから集まった多くの折り鶴を、代表して団長、副団長が奉納しました。



久寺家中・山田叶真さん

また、市内の各中学校の全校生徒が思いを込めて千羽鶴を作り、私たちが代表して奉納してきました。

この場にあった鶴 1 羽 1 羽に作った人の思いが詰まっています。

そして平和を多くの人願うとともに、原爆や戦争の残酷さを知ることができる良い場所だと思います。なので、ここに訪れる人が増えれば、平和の思いの輪が広がり、平和の願いが叶うと思います。





布佐中・鈴木友瀬さん

そして式典会場に入りました。
初めに平和祈念像の前でそれぞれの思いを
込め、平和を願い、祈りを捧げました。



我孫子中・稲見帆夏さん

私は式典の会場で長崎テレビから、式典の様子や平和、戦争についての取材を受けました

取材に対して、「私は戦争が嫌いだからこそ被爆地を自分の目で見て、なにが起こっていたのか真実を学ぼうと思い派遣に参加しました。そして平和とは、誰もが笑ってられ、何気ない気遣いができることだと思います。」と答えました。

地元のテレビ局が特集を組むほど、長崎では“8/9”という日が決して忘れることのできない、重要な日になっていることがわかりました。

■ 平和公園来場者へのインタビュー



布佐中・五定舞桜さん

次に、私たち派遣団は式典に参列している方々にインタビューを行いました。

私たちのグループは、長崎大学から来ていた大学生の方々にインタビューをしました。



布佐中・五定舞桜さん

答えてくださった方々は、今の平和に対して、
「互いに尊重し合うことや、相互理解を深めること、相手を敬う気持ちがあれば
核兵器はなくなり、人々は平和になると思う。」とお話ししてくださいました。

また、「自分たちが平和の尊さや核の恐ろしさを発信しないといけない。」と話し
てください、その思いを持つことが世界の平和に繋がることを学び、とても勉強になり
ました。



湖北台中・齋藤向太さん



私たちのグループでは、まず初めに仕事の有給休暇を取って式典に参加
した、という男性二人組に話を聞きました。

お二人はずっと式典に参加したいという思いがあり、今年やっと実現したそ
うです。



我孫子中・稲見帆夏さん



次に、宮崎から来た親子に話を聞きました。
「親戚が広島で被爆しました。長崎の原爆投下も他人事とは思えません。なので、広島、長崎の式典には毎年参加しています。」
とお母さんは話してくれました。
さらに娘さんは、「戦争は難しいしない方がいい。戦争なんて怖くて考えたくもない。」と教えてくれました。



久寺家中・山田叶真さん

最後に五島列島から来られた夫妻に話を聞きました。こちらの方は、実際にお父さんが被爆されたそうです。
平和とは？と聞くと、「ゆったりとした生活が送れること」と答えてくださいました。
ですが、「現状、日本は優柔不断な社会がゆえに様々な決断が下せず、平和に対する努力が怠っている。」と話してくれました。
代表して三組の方々についてお話しさせていただきましたが、ほかにもたくさんの方々にインタビューをさせていただきました。



我孫子中・稲見帆夏さん

年齢、性別、バックグラウンドは違っても、皆さん願っていることは同じで、実際に被爆地へと足を運ぶことができる、平和への願いが強い方々でした。

私はただ原爆投下の歴史を学ぶだけでなく、私たちと同じ平和を願う方々と交流をし、意見を深めることも大切だと感じました。



布佐中・鈴木友瀬さん



インタビューをした人にどこから来たのかを聞くと、山形や福岡、外国ではオランダから来た人がいて、たくさんの方が平和を願っていると感じ、私は心が温かくなりました。

その中で小学校の先生にもインタビューできました。その先生は、「平和の授業をして、小学生に平和について考えさせる」と言っていました。

このように全国で『平和の授業』が増え、広まると良いと思いました。



久寺家中・工藤心陽さん

私たちは、バルセロナから来た人に英語でインタビューをしました。その方々は、平和祈念式典に参列するために長崎を訪れたそうです。

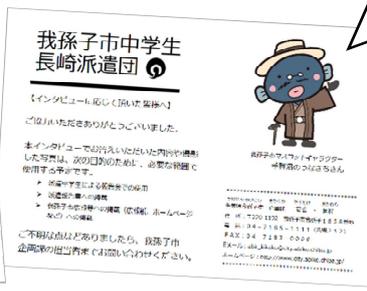
「原子爆弾についてどのように思いますか。」と聞くと、

「恐ろしいです。」と質問に答えてくださり、

「平和の意味とは何ですか。」と聞くと、

「友達や家族を愛することだと思います。」と答えてくださいました。

また、福岡から来た人にもインタビューをしました。その方は長崎の原爆により兄弟を失ってしまい、核兵器廃絶を願い平和祈念式典に参列したそうです。



インタビューに答えてくださった方に、我孫子市の平和事業について紹介するチラシをお渡ししました

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典



布佐中・五定舞桜さん

インタビューを終え、いよいよ「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」が始まりました。

平和祈念式典には、長崎県内だけでなく、全国から、また海外から多くの人々が参列しています。

式典は被爆者の方たちによる合唱で始まり、原爆死没者名奉安、献水、献花が行われました。



そして、原爆が投下された時刻、11時02分に黙とうを行いました。



次に田上長崎市長による『長崎平和宣言』、
被爆者 山脇佳朗さんによる『平和への誓い』が読み上げられました。
長崎市立城山小学校の児童による『子らのみ魂よ』の合唱、
来賓の安倍首相、国際連合事務総長名代、中村長崎県知事の挨拶、
純心女子高等学校による『千羽鶴』の合唱、
最後は司会を務めた高校生二人の言葉で式典が締めくくられました。

青少年ピースフォーラム 2日目



湖北中・佐藤皓介さん

2日目の「青少年ピースフォーラム」では、主に意見交換が行われました。

最初に、他県の人達と友達になるために、「人間知恵の輪」などのレクリエーションをしました。その後は、戦時中の学生が残した手紙を読んで、それについての感想を書き、「今の世界は本当に平和と言えるのか」など、平和について沢山話し合いました。

僕は、「今も争って命を落としている人がいるから、平和とは言えない」という意見を持ちました。





我孫子中・岡智希さん

平和祈念式典や今まで話し合ったことを踏まえ、平和な世界について考えたり、その実現のために取り組む人たちについて話し合ったりしました。

そして平和とは自分達とは関係のないものではなく、もっと身近にあるものではないかと思いました。そのため、今自分が平和のためにできることも多くあるのではないかと考えるようになりました。



私たちは 2 日間で、被爆体験講話を聴き、過去に戦争が原因で悲しい思いをした人がいたことを学びました。今の世界の状況についても一緒に考え、平和は何なのかを改めて考えました。また、平和のために取り組んでいる人や活動についても班で発表し、私たちは平和について多くの事を知ることができました。この経験を生かして、平和のために何ができるかを考え、実行していくことが大切だと思いました。

活動の最後に、1 枚の用紙に「平和のためにできること」について書きました。これを一つにすると、花の形になります。参加者全員の思いによって、見事にたくさんの花を咲かせる作品が完成しました。



湖北台中・齋藤向太さん

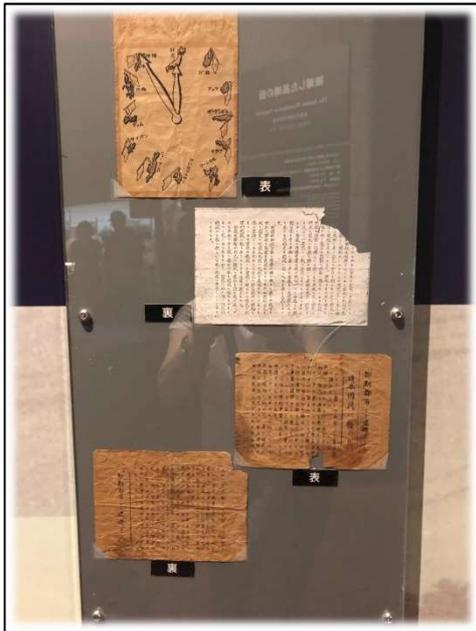


長崎原爆資料館



久寺家中・山田叶真さん

ピースフォーラムの後は、長崎原爆資料館に行きました。
ボランティアの平和案内人の方が、展示物についてとても細かく、わかりやすく教えてくださいました。



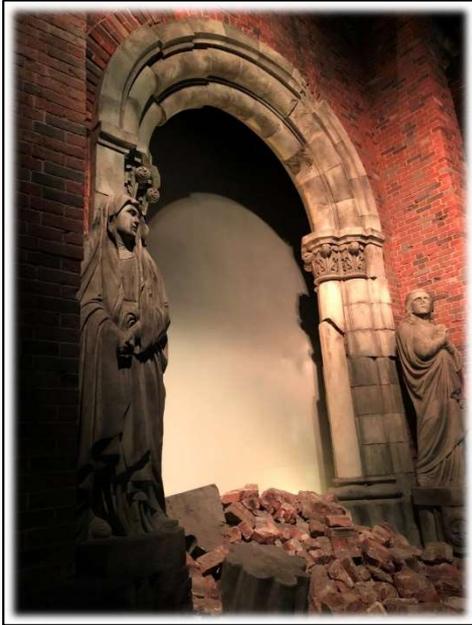
これらは米軍機が 1945 年 8 月に入って全国各都市に投下したビラです。このビラを発見した時、警察に届けなければ罪になったそうです。

内容は「この都市から避難しろ。」などでした。

敵対する国々であっても人命を守るための行動ができる優しさがあるのなら、戦争をしないという選択をとれたのではないかと思います。

これは、原爆の被害を受けた給水タンクです。
爆心地から約 800 メートルのところにありましたが、秒速 200 メートルにもなる爆風や熱風により、鉄でできた支柱もぐにやぐにや曲がっていました。
もし自分がその地にいたと考えたら、命を守ろうとする前に、死んでしまうのではないかと思います。





これは浦上天主堂の被害を現したレプリカです。爆風により、像の台の部分にずれがあったり、建物にひびが入っていたりと、石やレンガでできたものにも被害が及んでいて、原爆の威力を改めて感じました。

そして、レプリカのところにある破片は実際の浦上天主堂のものだそうです。

小さな破片が多く、これらの破片によってけがをした人も多くいて、常に命を守るために気を張っていなくてはならなかったと思うと、とても怖かったのではないかと思います。



久寺家中・工藤心陽さん

この写真の左側のものをご覧ください。これは、長崎に投下された原爆・ファットマンの模型です。この模型は、当時実際に長崎に投下された原爆と同じ大きさで、長さ 3.25 メートル、直径 1.52 メートルもあり、火薬を使用した爆弾は、4 トントラック 5,250 台分（2 万 1 千トン）相当もあるそうです。

この大きな物体がさく裂して人々を傷つけたと知ると、いかに原爆が恐ろしいかを目や耳で感じることができました。



我孫子中・稲見帆夏さん

展示ブースの最初に、私たちを待っていたのがこの時計です。

永遠の“11:02”。この時計は、長崎の街が一瞬にして破壊されたことを語っています。

これは爆心地から 800m の場所にある山王神社近くの民家にあったものです。爆風で損傷したため、針は爆発の時刻“11:02”を指したまま止まっています。

被爆者の心の中はきっとこの時計のように止まってしまっています。時計は出来事だけでなく人々の気持ちも感じられるものでした。



これは原爆の爆風、熱線の光により、はしごのメッキが剥がれ、その壁に移ったものです。

私たちはこの写真を見て、原爆から放たれる高温な熱線・爆風の恐ろしさを目で見て確かめることが出来ました。



白山中・本田拓海さん



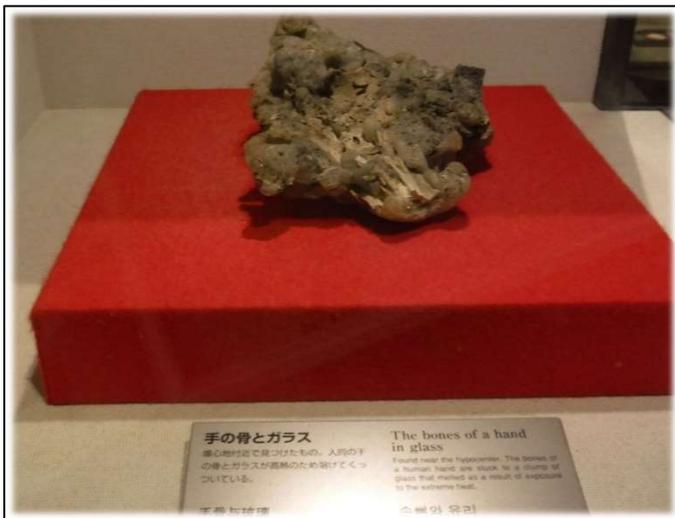
白山中・市川みなみさん



下の写真をご覧ください。これは爆心地付近で見つかったものです。人間の手の骨とガラスがくっついてしまっているのが分かるでしょうか。

また、このほかにも 6 本のビンがくっついてしまったものもありました。ガラスの溶ける温度は約 1,000 度ですから、爆心地はそれ以上の温度があったことが分かります。

実物を見て、私はガラスを溶かし、人間の骨とくっつけてしまうほど、その時起きた熱は高く、恐ろしいものだと思えて感じました。





白山中・本田拓海さん

2日目の反省会では、長崎平和祈念式典や原爆資料館などを見学したことで、1日目より原爆の恐ろしさや平和の尊さを学び、さらに考えが深まりました。

また、ピースフォーラムで平和への意見について全国から来た人々の話を受け、平和についての価値観が変わっていきました。

その中で私は、「当たり前のことを当たり前のよう出来る環境こそが平和だと思う」という意見を聞き、反省会で発表しました。



<8月10日(土) 第3日目>

7 長崎歴史文化博物館 見学

長崎空港→羽田空港
我孫子駅 解散式



長崎歴史文化博物館



湖北台中・飯田愛菜さん

最終日の3日目は、長崎歴史文化博物館の見学です。

歴史文化博物館へ歩いていた「通り」は、私たちと同行した被爆者の会の山的山さんが事前説明会で話していた、生まれ育った家や、通った小学校があった、まさにその道でした。



湖北中・岡島舞衣香さん

長崎歴史文化博物館では、長崎の歴史について深く学ぶことができました。

また、原爆が投下される前の出来事から、なぜ長崎に投下されて、多くの人々を傷つけ、苦しめたのかを知ることができました。



久寺家中・工藤心陽さん

長崎には、戦艦を造っていた三菱造船所があり、そこをめぐって原爆が投下されたそうです。原爆のこと以外にも長崎と海外のつながり、鎖国のことなども学ぶことができました。

あっという間の3日間。
派遣団としての活動を終え、私たちは長崎をあとにしました。



3日間、長崎で沢山学び、感じて、我孫子に帰ってきました！